

館名	古田公民館
事業名	このまちにくらしたいプロジェクト2
趣旨	○少子高齢社会、人口減少社会等を見据え、中学生を主体に地域住民など多世代が連携し、地域課題に対応するまちづくり活動に取り組む。 ○これらの学習や活動を通して、社会に主体的に関わり、行動する人材を育む。
特徴	○多世代共生 ○ソーシャルデザインと人材育成

事業の様子



第 5 回 (H28.9.25)



臨時回・大人編 (H28.10.17)



第 6 回 (H28.11.12)



第 7 回 (H28.12.4)

活動実績	実施回	第 5 回	臨時回(大人編)	第 6 回	第 7 回
	実施期日	9 月 25 日(日) 10:00~13:00	10 月 17 日(月) 15:00~17:00	11 月 12 日(土) 10:00~13:00	12 月 4 日(日) 9:30~13:00
	実施場所	古田公民館、 古江西町公園	古江西町公園	古田公民館、 古江西町公園	古田公民館 (雨天のため公園 は中止)
	実施機関・団体	古田公民館・多世代寺子屋ネットワーク			
	参加者数	10 人 (小学生 1 人、中 学生 4 人、大人 5 人)	12 人 (園児 1 人、小学 生 7 人、大人 4 人)	17 人 (園児 3 人、小学 生 4 人、中学生 3 人、大人 7 人)	30 人 (園児 7 人、小学 生 4 人、中学生 6 人、高校生 1 人、 大人 12 人)
事業費	需用費 6,652 円	なし	なし	需用費 1,536 円	
事業の流れ	<プログラム> ①ロープワーク実 習「竹ブランコづ くり」 ②水ふうせんあそ	<プログラム> ①ロープワーク実 習「滑車ロープ づくりと実験」 ②12 月イベント実	<プログラム> ①12 月イベントプ ログラムの準備 確認と役割分担 ②ロープワーク「滑	<プログラム> ①カゴ電車 ②廃材ボーリング ③紙ふうせん ④中学生演出のコ	

	<p>び ③おおなわとび</p> <p><流れ・所感等> ▽12月イベントに向け、アイデアの出されたあそびのプログラムを一つずつ実習していった。 ▽思いのほかロープワークには手こずったので、一つしかできなかった。改めて大人だけの研修が必要と感じた。 ▽中学生提案のあそびに夏場しかできないものがあったので、今回実施したが、大人も一緒にあって童心にかえて大いに盛り上がった。</p>	<p>施要領の打合せ</p> <p><流れ・所感等> ▽前回積み残しのロープワークを、まずは大人ができるようになると臨時実習に取組んだ。 ▽滑車につけるゴムタイヤは地域の自転車屋の協力で廃材を分けてもらった。 ▽ロープが新品のため、ある程度使用しないと馴染まないことが分かった。 ▽12月イベントに向け、中学生と話し合うための打合せを行なった。</p>	<p>車ロープ・竹ブランコ」の実習 ③カフェメニューの研究「燻製器とミニロケットストーブによる焼き芋づくり」</p> <p><流れ・所感等> ▽中学生の提案により、レストゾーンとして実施するカフェをコスプレで演出することになった。 ▽カフェメニューとして、燻製器などでおやつづくりの実習を行った。 ▽ロープワーク遊具の設置は徐々に慣れてきた。公園にいた子ども達がたちまち集まって楽しんでいった。 ▽ロープワーク遊具や木工あそびは、指導や物品調達の観点から、大人を中心にもとまちな自遊ひろばのゆうえん隊に応援を頼むことになった。</p>	<p>スプレカフェと燻製のおやつづくり ⑤何が出るかなサイコロゲーム ⑥活動写真展</p> <p><流れ・所感等> ▽雨天のため、残念だが公園に張り紙をして、会場を公民館に移した。それでも数組の親子が訪れてくれた。 ▽廃棄品のカゴ台車を手に入れたので、新たにカゴ電車あそびに活用し、親子連れに大人気だった。 ▽中学生が小学生の遊び相手として大きな役割を果たした。 ▽中学生のつくるコーヒーは大人にも好評だったので、燻製などのおやつづくりは大人メンバーがサポートした。 ▽イベントの最後に、手作りの大型サイコロで多世代そろってゲーム。急きょ進行を中学生が担い、楽しく盛り上げてくれた。</p>
<p>参加者の声</p>	<p>○(これまで3年間の経緯を踏まえ)公園を活用したプレーパークを古田地域につくりたい。 ○ほかのプレーパークを参考にしながらも、古田地域らしいオリジナルの取り組みも考えたい。 ○人気(ひとけ)の少ない公民館近くの公園を子どもたちが集まる場所にしたい。</p>			

<p>成果と課題</p>	<p>【成果】</p> <p>○参加人数が少ないスタートで心配ではあったが、プレーパークをつくるための基礎的な準備や学習活動は徐々に前進している。</p> <p>○公民館で活動する趣味の大道芸グループの協力などで、大道芸に出会える公園など、オリジナルのあそび場づくりのイメージが見えてきた。</p> <p>○参加メンバーのつながりから、小学生の参加も見られ、多世代で参加できるあそび場づくりに一歩近づいた。</p> <p>○中盤からできるだけ現場となる公園で実践していくようにしたので、遊びに来ている小学生や親子連れを誘い込みながら、活動をPRしながら活動することができた。</p> <p>【課題】</p> <p>○参加中学生の学年構成にバラつきがある。昨年度までの参加中学生が受験準備などで減少し、3年生が少なく、1年生が大半。ほとんどメンバーが入れ替わった形で、これまでの経験が反映しにくいスタートとなった。</p>
--------------	--

- 今後はリーダーシップを図れる中学生の発掘や、大人サポーターの役割などを具体化していく必要がある。
- 企画運営する「多世代寺子屋ネットワーク」のコアメンバーの育成、増強が急務である。
- 前半のまとめとして取り組んだ 12 月のイベントは、2 日前に急きょ雨予報に転じたため、雨対策のプログラムを準備していなかったのが慌てた。結果的に、公民館で準備が整うものへと切り替え、難なく乗りきった。次回は外遊びできる事を願いたい。

【運営した感想】

(工夫したこと)

- 前半のプログラムは、できるだけ参加者同士が打ち解け合えるように、参加体験型のアクティビティを積極的に用意した。大人もワークに加わり、新鮮に楽しめている様子だった。
- 12 月イベントの広報は、中学生が試験期間のため、大人たちで、小学校、幼稚園、保育園、町内掲示板などにチラシ・ポスターを配布掲示してまわった。前年度も行っていたので、協力的に受け入れてもらった。

(相談したいこと)

- 中学生にとっては、校外行事のため、できるだけ規則を設けず、参加者同士の話し合いによって行動できるように心がけているが、あまりに自由すぎる場面もある。中学生を主体に進めたいが、集団行動や興味を持って課題解決に臨めるような、中学生の参加意識を高めるユニークなアクティビティや運営方法のアイデアについて、アドバイスがほしい。
- 子どもたち自身が創りだす遊びを発見できるよう目指しているが、それらの専門性をもつ指導者との接点がない。大人も含め、そういった専門性を学べる機会をつくりたい。

(嬉しかったこと)

- あそび場づくりの対象は小学生以下がメインターゲットと想定しているが、数回のプログラム体験を経て、子どもと大人と一緒にできる遊びとか、カフェなど、公園空間を楽しめるアイデアも出てきた。
- 高校生になった OB がイベントを手伝ってくれた。プロジェクトのその後の経過にも関心をもってもらえているようで嬉しかった。
- 12 月イベント雨天時のプログラムでは、中学生が積極的にカフェの演出やゲームの企画進行などを担い、自発性に成長が見られた。

(今後の希望)

- 協調することが苦手な生徒もいるが、自分なりの役割を見つけている様子だった。あせらず、気長に向き合いたい。

連絡先

広島市古田公民館
〒733-0874 広島市西区古江西町 19-15
電話 082-272-9001 ファクシミリ 082-272-9001
電子メール furuta-k@cf.city.hiroshima.jp